

## 秋田駒ヶ岳・乳頭山

1637m, 1477m

田沢湖町, 雫石町

JR秋田新幹線田沢湖駅から羽後交通バス駒ヶ岳八合目行き終点下車

JR秋田新幹線田沢湖駅から羽後交通バス乳頭温泉行き終点下車

2001年9月8日

- 600 秋田港 (新日本海フェリーターミナル)
- 620 JR 土崎
- 735 JR 田沢湖
- 805 田沢湖駅前 838 高原温泉 (バス ¥580)
- 850 高原温泉 918 駒ヶ岳八合目 (バス ¥410)
- 942 赤土の広場 (片倉岳)
- 1020 男女岳
- 1048 横岳
- 1056 焼森
- 1115 小沢渡渉
- 1142 湯森山
- 1223 宿岩
- 1256 笹森山
- 1326 水場
- 1329 ~ 1355 千沼ヶ原
- 1434 乳頭山
- 1449 田代平・黒湯分岐点
- 1505 田代平山荘
- 1510 孫六温泉分岐点
- 1601 ~ 1620 孫六温泉
- 1630 乳頭温泉バス停
- 1640 乳頭温泉 1729 田沢湖駅前 (バス ¥740)
- 1850 JR 田沢湖 2037 JR 水沢江刺

以前に見たパンフレット 1によると秋田駒ヶ岳には比較的簡単に登れそうな印象だったので今回の計画を立てた。関連するホームページを調べると駒ヶ岳 乳頭山縦走で7時間の行程である。楽ではない。しかし交通機関の接続は良く、最悪でも秋田新幹線の最終に乗車すれば時間的に余裕があった。

新潟から新日本海フェリーに乗り秋田で下船する。JR土崎駅に駆け足で向かい秋田行き列車の発車5分

前に到着。券売機で田沢湖行きの乗車券と秋田新幹線特急券を購入し改札を抜ける。男鹿からくる二両編成の秋田行きディーゼルカーに乗車。ほぼ満席なのでデッキに立つ。秋田で秋田新幹線こまちに乗換。既にこまちはホームで待機している。朝食代わりに缶コーヒーを買ってから乗車する。車内でうとうとしているうちに田沢湖駅に到着。下車したのは小生1名のみだった。駅前通りの左側を直進し交差点を渡ると羽後交通バスの営業所がある。ちょうど横浜から長距離夜行バスが到着していて駒ヶ岳行きのバスに乗り換える登山客が数名いた。この時間帯は駒ヶ岳行きの直行便はないので乳頭温泉行きに乗車し途中の高原温泉で乗り換えすることになる。

地方の路線バスであるが観光地だけあって車両は大型観光バスである。10人程を乗せて発車。後の座席で若者がカップラーメンをすすっている。高原温泉で下車し駒ヶ岳八合目行きのバスに乗り換える。バス停前の駐車場から田沢湖を見渡すことができた。本日は車両規制のためマイカーの登山客は高原温泉か田沢湖スキー場の駐車場に車を停めてバスに乗車することになる。田沢湖スキー場では大勢の方が行列をつくってバスを待っていた。バス1台では収容しきれず。残された人はどうするのかと思ったが2台目のバスがあらかじめ待機していた。

バスはいくつものカーブをやり過ごしながら次第に高度を上げていく。いつの間にか樹林帯から低木地帯となり高原の雰囲気となる。しかし霧が濃く肌寒い。この先の天気心配である。終点の八合目小屋に到着。寒いのでトレーナー、軍手を身につける。登山口左脇に水場がある。霧のため視界は無くどの方角に山頂があるか見当もつかない。誰か先行して出立する方がいないのかなあと見回すがほとんどの方が小屋の中に入ってこれからゆっくりと山歩きの支度をはじめようといった感じだ。やっと2名のグ

ループが登山口から歩き始めたのでその後からついていく。しかしグループはそのすぐ先の見晴台で一休み。とうとう、この時刻に着いたバス組の中では先陣を歩くことになった。

地形図上では八合目から四つのコースが分岐している。小生が登った登山口からはすぐに左に分岐するコースがあった。この分岐コースはおそらく湯森山方面に向かうと思われる。その先には大きな岩がゴロゴロしている場所に出る。ここで登山道は大きく右に迂回する。霧の中で方向感覚がなく現在地も特定できないが、道は明瞭で登山客にも会ったのでコースは間違いなさそうである。やや急な坂道を過ぎると高山植物が咲く草地帯となる。

赤土の広場（片倉岳）と記された道標があり地形図上では1456mのピークと思われる。周囲はその名の通り赤土（実際は真っ黒に見えた）がむき出しである。晴れていれば西側斜面のパノラマが望めそうだがあいにく白一色霧の世界である。その先はいっそう平坦な地形となる。先行するグループが多数なので左右の高山植物を楽しみながらゆっくりと進む。湿原に入ると道は木道となる。阿弥陀池小屋まで木道は2列となっているので歩きやすい。男岳への分岐点を過ぎると阿弥陀池が見えてきた。霧の中の幻想的な雰囲気である。此处で木道は左右に分岐するが地形図で調べるとどちらを通っても阿弥陀池小屋で合流する。先行のグループが左を進んだので小生は右に向かった。阿弥陀池のほわりには幾つかのベンチが設置されていて休憩には最適なのだが本日の肌寒い中で休憩している方は誰もいなかった。

阿弥陀池小屋（工事中で使用できない）前で各コースからの道が合流する。最初の目的地は男女岳。阿弥陀池と阿弥陀池小屋の間から北側に向かう階段を登っていく。振り返ると一瞬霧が晴れ阿弥陀池がよく見えたので写真を撮ろうと思いカメラを取り出すとすぐに見えなくなった。今日は風景はあきらめ体力づくりの日としてもくもくと歩くしかないと思う。山頂に到着。全く視界は無し。時計を見ると計画表通りの時刻だった。通常、計画表は余裕を見て作るので少し早めに着いてちょうど良いのだが今日は余裕がなさそうである。従って休憩もそこそこにして次の目的地の横岳に向かうことにした。再び阿弥陀池小屋の前を通り横岳コースに入る。道幅が狭

くなったのですれ違いの登山客には道を譲りながら進む。

男岳 - 横岳の稜線に出ると女性5名ぐらいのグループに会う。阿弥陀池近くで道を尋ねられた方々であったがここで再会した。もう一度地形図を見ながらコース案内をする。男岳往復と途中で阿弥陀池に下るコースがあると説明。小生にとって全く未知のコースを説明するのはおこがましいが各分岐点の道標が明瞭かつ事前の下調べでも難所はなさそうだったので大丈夫だろうと思う。お礼にお菓子をいただいってしまった。

横岳山頂は直径5mぐらいの広場になっていて既に5～6人が休憩していた。依然として霧で視界がないので通過する。しかし次第に霧が消えてきて前方に焼森、湯森山が見えるようになってきた。焼森は真っ黒な土がお椀を伏せた格好で盛り上がっているところで緑が無く異様な雰囲気である。その後方にある湯森山は山裾が広く緩やかな傾斜でピークに達していて雄大である。その左に笹森山がある。八合目から笹森山に向かう一直線の上り道がよく見えるが壁を登っているようなきつそうなコースだ。湯森山の右後方には遙か彼方まで岩手の山並みが連なっているが何山か皆目分からないのが残念である。

霧が晴れ周囲の景色を見回しながら進んでいるうちに焼森に到達した。草木が生えない溶岩地帯を歩いている感じた。この先を少し下ると八合目方面と湯森山方面の分岐点となる。予定通り湯森山に向かうが、なだらかな斜面の最奥に頂点があるので、地図上では2kmだがその倍以上の距離があるように思われた。日が照りだして暑くなってきたのでトレーナーを脱ぐ。落差がある階段や溝状の斜面に苦労しながら下ると焼森・湯森山間の最低鞍部に出る。こ

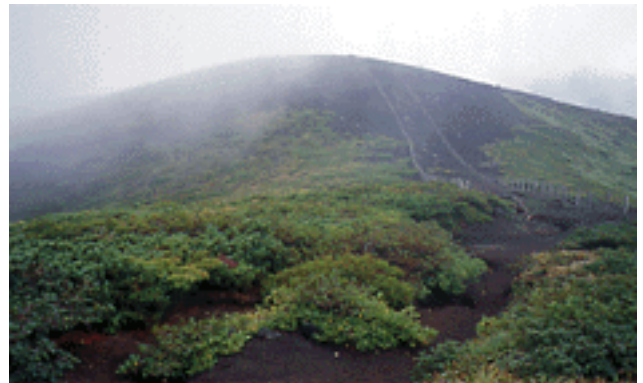


写真1 焼森

の位置に小沢が流れていて水を得るにはちょうどいい。腰の下程の高さの笹藪を時々通り抜けながら緩やかな坂道を登る。そろそろ山頂かと思って近づくとその先に同じような上り坂が続きがっかりということを繰り返す。後方には先に登頂した男女岳がよく望めるようになった。思いがけず男女ペアと行き違える。横岳 湯森山間で出会ったのはこの2名のみで横岳以前の賑やかさとはうって変わって静かな山歩きとなった。

湯森山頂の広場に到着。ベンチに座って昼食とし



写真2 駒ヶ岳 (湯森山より)



写真3 笹森山 (湯森山より)



写真4 湯森山 (宿岩より)

た。この位置からは、男女岳を中心とした駒ヶ岳連山の展望がよい。周囲は笹で覆われたなだらかな起伏であるのに対して、男女岳下部の険しそうな岩場が対照的である。麓の八合目小屋も見える。湯森山から八合目への下山コースが分岐する。山頂広場には登山コースの案内板が立っていた。山頂三角点は広場から笹森山方面(少し東側)にあった。その先200m程進むと大岩が積み重なっている場所に出た。突然今まで見えなかった東側(岩手側)の眺望が開ける。遙か遠くの平野部まで見下ろすことができ素晴らしい。また、北東の方角には次に目指す笹森山の非常に緩やかな斜面が続きその中腹には二、三の湿原を湛えている。この風景が東北の山らしいところではないかと思う。

一旦鞍部に下るとぬかった道になる。すぐに最初の湿原を横断する。二つ目の湿原を過ぎると登山道を遮るように高さ4~5mの大岩が立つ。道標には宿岩と記されていた。宿岩の左側を迂回して這い松地帯の小ピーク(熊見平と思われる)を過ぎると三つ目の湿原に出る。この湿原は東側に続いており岩手側に流れる沢の源頭になっているようだ。その先は、笹森山頂に続く緩傾斜の登りとなる。常にピークが前方に見えるので山頂はもうすぐだろうと感じてしまいがなかなか到達しない。気分転換に時々後ろを振り返ると湿原や湯森山・駒ヶ岳の眺めがよい。やっと山頂の標柱がピークの上に現れた。

笹森山からは360°の展望が見渡せる。特にこれまで笹森山に遮られ見えなかった北側の眺望が素晴らしい。眼下に千沼ヶ原の湿原、山頂付近が険しい岩場となっている乳頭山、乳頭山の右側台地の湿原、遙か後方に八幡平に続く山並みが屏風のように聳えている。



写真5 乳頭山 (笹森山より)

千沼ヶ原に下る。山頂直下の斜面の階段はまだ新しく最近整備されたようだ。この付近も湿原となっているので保護のためであろう。乳頭山への直行コースの分岐を過ぎると千沼ヶ原が目前に近づく。ここで大判カメラを担いで登ってくる方とすれ違う。コースの右側に沢が流れている。途中その沢に下る階段があり水場となっている。雑木を抜けると千沼ヶ原の西端に至る。東西に木道が敷設されている。この場所に千沼ヶ原の由来が記された案内板が立つ。横岳から笹森山まで秋田・岩手の県境を歩いてきたが千沼ヶ原は完全に岩手の領域であり、案内板の柱にもそれが記されている。湿原の中央部まで進み木道の上に腰を下ろし休憩する。無数の池塘が点在する。ワタスゲは既に枯れ、これから秋の花が咲き始める頃であった。



写真6 笹森山から千沼ヶ原へ

これから後の予定を考える。ゆっくり歩いてきたつもりだが計画表より千沼ヶ原には10分早く到着した。しかし更なるペースアップはしないことにした。この調子でいくとバスや新幹線の待ち時間に余裕があるので乳頭温泉に入ることに決めた。

30分の休憩後千沼ヶ原を発つ。シラビソ林を抜け幾つかの小沢を渉る。小沢周辺は花畑となっているが今となっては盛りは過ぎたようだ。笹森山からの直行コースと合流し鞍部に下る。左手下方に小湿原がありこれに見とれているうちに乳頭山へのきつい登りにはいる。本日初めての体力を使う本格的な山登りである。背丈ほどの笹藪をかき分けながら進んだあと、石ころが多い岩場をジグザグに登る。右手に直径10m位の大きな池があった。滝ノ下温泉への分岐点から先は特に険しい尾根となり南面は切り立った崖となっている。注意看板が立っていて岩場には

亀裂が入っているのでロープの外には出ないように、とのことである。なるべく安全な北側に身体を向け足元を確かめながら進む。

乳頭山頂着。360°の展望がある。北側眼下に湿原、北西に田代平湿原(田代平山荘も見える)、その奥に小白森山(山頂湿原がよく見える)、そして南西には田沢湖が見渡せる。天気はやや曇ってきたので湖面は銀色に輝いている。山頂は岩場となっているが南面は転落防止のためロープが張られてある。乳頭温泉側に少し下ったところにベンチがありここからは田沢湖の展望がよい。



写真7 乳頭山山頂

これから向かう田代平の地形を頭に入れてから下山する。草原の中の爽快な下りである。田代平と黒湯の分岐点付近は瓦礫で道幅が広がっている。田代平へのコースは所々に木道が敷設され歩きやすい。何度か樹林帯を通り抜ける度に眼下に見える田代平山荘が近づいてくる。最後の笹藪をかき分け山荘に着く。山荘は、一階は中央にテーブル、周囲の四辺はベンチ、入口右側にトイレがある。二階は板張りの床となっている。山荘の入口の扉は開け放たれていたが中には誰もいなかった。山荘の前に直径5m位の池がありその外周に木道が敷かれている。山荘から先はシラビソの中に幾つかの小湿原が展開する。

孫六湯の分岐点には湿原の中に電信柱のような大きな標柱が立っていた。田代平湿原はこの先も続くので立ち寄ってみたいところだが次回の楽しみとし計画表通り孫六湯に下ることにした。本日のコース最後の記念として乳頭山を背景に湿原の写真を撮る。その先は薄暗い森の中を一気に下る。1178mの小ピークと思われる地点から先は道幅が広くなり歩きやすくなる。赤リボンが短い間隔で現れるがリボンにマ

ジックで記号が記入されているので測量用と思われる。左右の沢の音が次第に大きくなり右側の沢が登山道のすぐ下を流れるようになってから間もなく孫六湯の登山道出口に着いた。

入浴の許可を得ようと思ったが川沿いに幾つかの建物が並んでいるのできよきよしてしまふ。宿泊施設らしいL字型の一番大きな建物の玄関に受付があり入浴¥400と書かれてあった。しかし受付には誰もいない。見回すと玄関脇でおばあさんと子供が後ろ向きになって採れたての山菜の葉っぱを一枚一枚摘み取っている。「こんにちは。」と声をかけるとそのおばあさんが受付をしてくれた。浴場は川沿いに4~5ヶ所あり後で知ったがそれぞれ泉質が異なるとのこと。露天風呂には先客一名がいたので遠慮し、次の浴場の引き戸を開けると女性一名がいたのでまた遠慮する。一番大きい浴場の建物は男女別浴になっていて気兼ねすることがなさそうなのでここに決めた。さて、浴室の方は年月を経てとても古い。小生の子供の頃(30年前)にタイムスリップしたように感じる。今時こんな温泉があってよいのだろうかと驚いてしまった。浴槽は二畳程。最初は真っ黒な湯かと思ったが浴槽の内壁の木材が黒く変色していたためであった。浴槽の下にコンクリートブロックが置いてありその上に腰を下ろすと湯が肩まで浸かりちょうど良い。洗い場はなし。ここでシャンプーや石鹸を使ったら一気に水質汚染となるのは明白で

ある。

孫六湯で長居するつもりだったが長々と湯に浸かるのもやはり限界がある。時計を見ると16時40分のバスに間に合いそうなので急いで着替え早足で歩く。バス停のある大釜温泉までは東北自然歩道として整備されていて車は通行禁止である。車道に出て左に大釜温泉、右に乳頭温泉バス停があった。孫六湯から徒歩10分で着く。定刻にバスが到着。10名ほどの乗客を乗せ発車した。その後、各温泉でも乗客があるが大半は高原温泉で下車した。近くの駐車場にマイカーを停めた方々であろう。バスを利用するとハイキングや温泉巡りのコース選定の幅が広がる。

田沢湖駅でかなりの待ち時間があった。駅構内に周辺の山岳立体地図が展示されていた。本日のコースを確認する。また、八幡平までの県境縦走コースが記されており興味を惹かれた。こまちの発車時刻になったので改札を通る。切符にスタンプを押しながら駅員が「みずさわえさし」と口ずさむ。以前から思っていたがこの駅名が入った切符を見せると大抵の駅で同様である。よほどユニークな駅名なのであろう。小生もそう思う。〈完〉

#### 参考文献

- 1：列車で行く北東北トレッキング 1999 夏  
JR 東日本盛岡支社発行